

ワシントン情報、裏 Version

2005年6月17日

竹中 正治

「詐欺との遭遇」

私は金銭事には、用心深いので、詐欺なんかには生涯ひっかからないと信じている。しかしインターネットと送金を利用した詐欺に遭遇するという怖い体験が最近あった。同様の手口は様々なバリエーションで世界中で急増しているそうなので、ご参考までに報告したい。

【Eメールで打診】

5月中旬に娘の復学のために家族を帰国させたので、単身赴任状態となった。セカンド・カーは不要になったので売るために、Car.com に広告を出した。早速3つの打診があったが、最初の2件は結局別の車を買うというので、流れた。3番目の打診は自動車関係のコンサルタントをしているという人物からで、Eメールで「自分の顧客が私の車を買いたい」と言ってきた。事前に自動車を見に来るかと思ったら、顧客は海外に出てしまっているので、後はエージェントが手配すると言う。私の提示した自動車の価格は17,500ドルだが、ローン組んだ後、米国からの SHIPPING に必要な費用込みで25,000ドルの小切手を送るので、受取次第差額の7500ドルをエージェントに Western Union (大手の送金業者) で送金するように依頼してきた。エージェントは7500ドルを受け取り次第、SHIPPING のためにアポを取って私の家に来ると言う。

【Bank Check なら安心か？】

私がこの時、小切手は銀行小切手(Bank Check)しか受け付けないと言うと、「勿論Bank Check を送る」と言う。ご存知の方も多いと思うが、Personal Check は受取人が口座を保有している銀行から先方の銀行に決済のために送付される。その時に振出人の口座が残高不足であれば、不渡り(Unpaid)となり、金は受け取れない¹。一旦受取人の口座に入金記帳されてもキャンセルされる。しかし銀行小切手は、振り出し銀行が、依頼者の口座を引き落としした上で当該銀行が支払を保証するものなので、その銀行が突然破綻しない限り、Unpaid はあり得ない。

私は「差額の7500ドルを送れ」という条件にちょっといやな感じがしたが、とにかく銀行小切手が送られて来るのを待つことにした。小切手は金曜日の午後に自宅に届いた。この時2度目の嫌な感じがした。なぜかと言うと、封筒に差出人の氏名、住所が記載されていないのだ。私は、「銀行小切手は受け取ったが、最終的な決済が確認できるまで郵送日数も加えて、数日かかるかもしれない。最終決済確認後に7500ドルの送金をする」と土曜日の朝にEメールで連絡した。

【「今日、直ぐに送金してくれ」】

すると、直ぐに返事が返って来て、「SHIPPING を請け負っているエージェントが、今日のうちに送金してくれれば、なんだかんだの事情で顧客のSHIPPING 手数料が軽くなると言ってい

¹日本だと小切手、手形は銀行から先方の銀行に手形交換システムで翌日には送付され、先方の銀行が Unpaid にする場合は、翌々日中に仕向け側の銀行に通知しなくてはならない統一規則になっている。従って、取り立てに出して二日経過して Unpaid の通知がなければ、決済は確実になる。ところが米国では日本のような統一規則がない。米国では小切手を受け取った支払地側の銀行は、通常4日間は最終決済を留保する。留保期間は銀行によっても多少違う。従って郵便日数+留保期間は Personal Check の不渡りの可能性は消えない。

る。どうしても本日 7500ドル送金して欲しい」と言う。提示された送金先の住所はオランダである。土曜日であるが、Western Union は営業している。私は益々嫌な感じがして、「エージェントの事情なんか、私は関知していない。来週私の銀行で銀行小切手の決済を確認した後、送金するので待て」と返した。すると今度は、「 SHIPPING・エージェント」から私に E メールが入り、「週を越えると手続上コストが増える。半額の3500ドルでもいいから本日中に送金してくれ」と言う。

最初のコンサルタントもエージェントも、Eメールのみで、自分らの米国での住所を記載していない。私はもっと早く、この「コンサルタント」の住所と電話番号を聞き、こちらから先方に電話することで、身元を確認すべきであった。ともかく、私はこの時点で、完全に「おかしい」と感じた。受け取ったのは Farmers national Bank 振り出しの完全な銀行小切手のように見えるが、もしかしたら偽造 (fake) かもしれないと思うようになった。

【くわばら、くわばら、やっぱり偽造だった銀行小切手】

月曜日、午前中に早速私が口座を持っている Bank of America の支店に行き、「銀行小切手の取り扱いで照会したいので、担当オフィサーに会わせてくれ」と依頼し、面談した。事情を話すと、担当オフィサーは小切手の振出人である Farmers National Bank にその場で電話し、小切手の確認を求めてくれた²。小切手番号を含む明細を先方の銀行に伝えたと、該当なし！ やはり偽造銀行小切手だった！ 私は「あぶないとこだった」と驚き、ため息をついたが、BoA の女性オフィサーは驚く様子もなく、この種の詐欺は近年増えていると語る。

私は一応銀行員だから、小切手や送金の決済について意識も知識もある。しかし一般の人が騙される確率は低くなかろう。銀行小切手を自分が口座を有する銀行のカウンターで入金処理して、「これで安心」と 7500ドルを送金してしまうのではなかろうか。その場合、数日後に支払地の銀行から「該当なし」で Unpaid の連絡が入り、入金記帳はキャンセルされる。送金した 7500ドルは戻って来ない。

勿論、私とコンタクトした「コンサルタント」も「エージェント」も間違いなく共謀である。もしかしたら同一人物かもしれない。良く出来た偽造銀行小切手だから、組織犯罪かもしれない。送金に銀行送金でなく、送料先方負担で Western Union を利用するように指示して来たのも理由がある。銀行の口座振込みだと口座名義から素性がばれる。銀行の口座開設の際の身元確認は昔に比べると現在はどこでも大変厳しくなっているので、偽名口座の開設は難しい。しかし送金業者の Western Union なら、支払地サイドのカウンターで住所・氏名の照合だけで、送金金額を受け取ることができ、身元がばれにくい。しかも海外のオランダでは追及も難しい。

【様々な手口で急増するインターネット関連詐欺と防衛法】

日本でも「オレオレ詐欺」やフィッシング詐欺 (Phishing) の増加が報道されている。フィッシング詐欺とはインターネットの Web Site や E メールを利用してクレジットカード番号などを入力させ、それを盗む手口である。ちなみに Google で「詐欺」「インターネット」のキーワードで検索すると様々な詐欺の手口、注意方法を教えてくれる Web Site が沢山出てくる。それだけ被害件数が急増しているのだ。「怪しい Web site は利用しない」のはひとつの防衛とし

² 米国の銀行で、この種の照会、相談をカウンターのテラー (窓口事務員) にしても無駄である。マクドナルドでカウンターの店員に「ここのハンバーガーのビーフはどこの産地か？」と問うようなものである。案内係に要件を言って、オフィサークラスと面談すべきである。

て必要であるが、大手銀行の Web Site そっくりの偽造サイトで騙す手口もあるそうだから、油断ができない。

私が遭遇したケースは小切手と送金の最終決済の時間的相違を悪用した詐欺であり、様々なバリエーションが考えられる。しかし、この種の手口から自分を防衛する原則は実は簡単で、「自分が受け取る金の最終決済を確認するまで絶対に支払はしない」、これに尽きる。相手に泣かれても脅かされても、先に払ってはいけない。

ご参考までに以下の National Fraud Information Center の Web Site で様々な詐欺の手口や防衛上の知識が紹介されている。電話かインターネットでの相談、事件の報告も受け付けている。私も早速本件事件をオンライン報告した。米国は小切手社会なので、やはり小切手を利用した詐欺が多いようである。

<http://www.fraud.org/>

<http://www.fraud.org/tips/internet/fakecheck.htm> (特に小切手を利用した詐欺についての説明)

東京の母と妻に E メールで、「こういう詐欺が増えているから、インターネット・ショッピングなんか軽々しくしてはいけない。クレジットカード番号も入力してはいけない。どうしてもしなくてはならない時は、事前に私に相談するように」と言った。すると母は、「あたしは、そんな得体の知れない買い物の仕方はしない。電子メールも友人・知り合いから送られて来たメール以外は開かないで片端から削除している」そうである。 まことに母上様ご賢明。

以上